

乳癌—特に進行・再発乳癌の黄体ホルモン療法について—

園尾博司*、森田哲生

Hormone Frontier in Gynecology, 8 (4), 81-88 (2001)

Breast Cancer - Progestin therapy in advanced/recurrent breast cancer -

Hiroshi Sonoo*, Tetsuo Morita

抄録 合成黄体ホルモン剤の作用機序と副作用、乳癌に対する治療成績、選択および位置づけなどにつき概説した。合成黄体ホルモン剤は、主として進行・再発例の治療に用いられ、抗エストロゲン剤治療後の二次治療薬として位置づけられてきたが、最近有用な新しいアロマターゼ阻害剤が登場するに及び第三次治療薬となりつつある。合成黄体ホルモン剤は、血管新生抑制やサイトカイン分泌抑制など多彩な作用機序を持つ薬剤であり、その特性を生かした治療が大切である。

* Kawasaki Medical School

川崎医科大学乳腺甲状腺外科学教室